

ツール 45：提案の比較

このツールの目的

意思決定をサポートするため、異なるステークホルダーの視点に立って課題を検討することで、その問題を分析する。

このツールを使うタイミング

収束のフェーズで、MSPの課題について異なる意見が表明され、比較が必要となったタイミング。

提案の比較とは

このツールはシンプルなマトリクスで、異なる視点からの提案を比較するためのものだ。このツールはグループ内で出てきたさまざまな提案を対象とし、それぞれについてのトレードオフを分析してくれる。このツールを使えば、さまざまなオプションが考えられることや、複雑な問題に対する簡単な答はないことをグループメンバーが理解できるようになる。

このツールはNational Issues Forum (NIF) が設計したもので、‘NIF Study Guide’としても知られている。

課題の領域		
問題の説明：概要		
問題は… (簡潔な文章で)		
視点 A	視点 B	視点 C
何をなすべきか		
賛成意見		
反対意見		
必要なコストやトレードオフは？		
違いを説明するのに役立つ他の質問		

このツールの最終的な目的は、課題にどう対処すべきかについて合意し、対話を通じ、どのような行動が必要かを定めることである。合意内容は、すべての参加者がオーナーシップの共有を感じられるような文言で表現されなければならない。

潜在的な課題や困難

メンバー全員の合意事項や提案を決めるプロセスは、初期段階において参加者間に不信を植え付ける場合がある。そのため、グループ内のメンバーの意見が食い違い、それがコンセンサス形成を阻害する可能性につながる。さらに、一部の参加者が、このプロセスを損なおうとしたり、操ろうとしたりする可能性もある。たとえば、以下のような場合を想像してほしい：

- 意思決定権者の代表が、グループが合意した内容について意思決定する権限が彼/彼女にはないと主張する。
- 特定のグループが、合意プロセスの最終段階になって別の課題を持ち出すことで、状況を有利に運ぼうとする。これは「トロイの木馬」の名でも知られる。
- 参加者の一部が、自分の関係者と協議する、あるいは彼らを説得するために、他のメンバーよりも極端に多くの時間が必要だと主張する。このような行為により、意思決定プロセス完了のためのタイムラインに関する予定が崩れてしまう。

別種の困難には、メンバーの関係者からのサポートが得られないことが考えられ、そのような場合には、グループの決定が遅延したり、決定事項が覆されたりする可能性がある。最後に、自分たちに実行権限のない意思決定をグループが行う場合もある。たとえば、グループメンバーに政府代表者がいないにもかかわらず、新法が必要だという決定を下す場合がこれに当たる。

役立つヒントと戦略

1. プロセスの破綻を避けるために重要なのは、安心感と信頼を醸成し、それを維持することである。そのために、以下を心がけるとよい：

- メンバー全員が守らなければいけない一連のグラウンドルールを作る（ツール9「グラウンドルール」を参照のこと）。
- 意思決定のための具体的なグラウンドルールについて、事前に合意形成を行う。たとえば意思決定は多数決で行う、等（ツール52「意思決定ルールの設定」を併せて参照のこと）。
- 意思決定プロセスを慎重に定義し、「勝った/負けた」という感情につながらないようにする。
- 外部とのコミュニケーションを注意深く管理する（メディアに何を話してよいかを合意しておく）。

2. 合意に至らない場合も、コンセンサス形成の可能性を残すため、どのような点で合意できないかについて検討することは有用だ。そのために役に立つツールが、Sam Kanerが開発した(2014年)「合意の勾配」(‘Gradients of agreements’)だ。このツールについての説明は[こちら](#)をクリック。また、すべての項目について完全なコンセンサスが本当に必要かどうかを考えることも有益である。

3. 意思決定プロセスの遅延あるいは操作を参加者が企んでいるように思われる場合、それがどのようなものであっても、ネガティブな決めつけを避け、そのような行動に至った理由を探ることが役立つ。

4. グループにおける議論の進展と参加者が代表する組織との間の関係について、たとえばコミュニケーション戦略などを通じ、注意を払うこと。

5. 決定事項がそのグループの権限を越えてしまうことを避けるため、ファシリテーターまたはプロジェクトチームは、他のメンバーを意思決定プロセスに巻き込まなければいけない議論の方向性やスコープとなっていないかについて、常に気を付けなければならない。

さらに知りたい方は：

本項での解説は以下に基づいている。

Bettye Pruitt and Philip Thomas (2007) Democratic Dialogue: A Handbook for Practitioners. Washington, DC: CIDA, International IDEA, the GS/OAS and UNDP. Page 131-133.

<http://tinyurl.com/nv8cafr>

Gradients of Agreement: Kaner, Sam, Lenny Lind, Catherine Toldi, Sarah Fisk and Duane Berger (2014, third edition) Facilitator's Guide to Participatory Decision-Making. San Francisco: Jossey- Bass. Page 333-373

以下も参照のこと：

http://msue.anr.msu.edu/news/gradients_of_agreement_can_help_move_groups_forward